

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

京都大学の学生時代、家からの送金はなく、私は学費を捻出するためと、時折り弟に仕送りをするために、週三回の家庭教師のアルバイトをしていたが、その中の一人に、小学生の男の子がいた。私は、その子を教えるにあたっては相当（A）を焼いた。

彼は、頭のいい子だったが^a、勉強好きな生徒ではなかった。私が教えて「わからない」ことはなかったし、事実、その日教えたことを問題にして出すと、ちゃんと解けるのである。

（1）1 コマ^②ったことに、全然復習しない彼は次の日になると、前日に私が教えたことをきれいさっぱり忘れてしまうのである。^b
時、そう^①したことがたび重なったので、私は、業^{ごう}を煮^にやして、

「この前はちゃんと理解していたのに、どうしたんだ」と、尋^{たず}ねた。すると、その子は非常に素直^{すなお}な明るい顔をしてこう答えたのである。

「ぼく、アホやし」

私は返^②す言葉がなかった。

もし彼が「復習せんかったし」と答えたら、たぶん私は「なんで、復習せんかったか!」と、雷^{かみなり}を落としていただろう。「実は、よう聴^きいとらへんかった」と答えたとしたら、「俺^{おれ}の教えることを、なんで聴かなかったか!」と、叱^{しか}りつけたに違^{ちが}いない。

だが、あとで気づいたことだ^cが、その子は私に、素晴^{すばら}しい知恵^{ちえ}を授^まずけてくれたのである。

数学という仕事をしていると、問題を九割がた解けながら、あとの一割が解けずに行き詰^づまることがよく^dある。それは、一歩間違^{まちが}えれば神経衰弱^{すいじやく}に陥^{おと}りかねないほど、数学者にはキケン^③な状況^{じょうきょう}なのである^eが、^fといって九割までこぎつけたのだから、おいそれと^aその仕事を放棄^{ほうき}することはできない。ここは一番、ねばり強く勝負をかけてみる必要がある^f。

その^③ような時、私は、かの男の子の名言を声に出して唱^なえるのである。^④「ぼく、アホやし」と。すると、頭がすつと楽になる。つきものが落ちたみたいに目の前が明るくなって、心にゆとりができてくるのだ。

どうせ私はアホなのだから、できなくて当然、できたら儲けものといった気持ちになるのである。(2)、「ぼく、アホやし」という居直りが、行き詰まった状態を解放してくれるわけである。

(3) (このように居直っても、あとの一割がどうしても解けない場合もある。だが、この居直り一つで思考のエネルギーがよみがえり、発想がかんじがらめの縄から解き放たれ、その一割がさほどクロウせず^⑤に解けたという経験が私にはある。

「およばぬこととあきらめました」と、あきらめ、「ぼく、アホやし」と、居直ることは、学問を離れた日常生活の中でも、大事なことではないかと思う。

(広中平祐「生きること学ぶこと」より)

注 神経衰弱 つかれによつて体調がくずれたようす

問一 線①～⑤の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 (1) (3) にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

ア しかも イ ところが ウ たとえば エ つまり オ もちろん

問三 (A) に体の一部をあらわす言葉を漢字一字で入れて答えなさい。

問四 a、c、e、gのがと、b、d、f、hのあるのうち、それぞれ意味が他のものと異なるものを選び、記号で答えなさい。

問五 〱線 a、b の言葉の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a	おいそれと		b	がんじがらめ
ア	あれこれと		ア	引つ張られること
イ	かんたんに		イ	切れてしまうこと
ウ	すぐに		ウ	からまりあうこと

問六 この文章には次の文が抜けています。入る位置の直前の五字を抜き出して答えなさい。(句読点も字数に加えます。)
が、「ぼく、アホやし」では、しょうがない。怒ることもできなかった。

問七 〱線(1)「そうしたこと」はどういうことを指していますか。「〱こと」に続くように、文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい。

問八 〱線(2)での作者の気持ちとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア あきれ果てた イ 不安に思った ウ 感心した エ 言葉を忘れた

問九 〱線(3)「素晴らしい知恵」とありますが、作者がそう思ったのはなぜですか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく、アホやし」と、自分のおろかさを自覚することで、答えを見つけれられるから。
イ 「ぼく、アホやし」と思うことで、心にゆとりができ、行き詰まりから解放されるから。
ウ 「ぼく、アホやし」という、ひかえめな心が、答えを見つけるのに大切だと思ったから。
エ 「ぼく、アホやし」と思うことで、逆に自分に自信が付き、答えを見つけれられるから。

問十 ———線(4)「そのような時」とはどんな時ですか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 答えが見つかったが、それだけでは不十分なので、さらに十分なものにしようと努力する時。
- イ 答えに行き詰まったが、あきらめることが出来ないで、さらに努力しなければいけない時。
- ウ 答えに行き詰まってしまったので、他の人の考えを聞いて、考え直そうとする時。
- エ 答えを見つけることが出来なかったので、もう一度はじめから努力をしようとする時。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の作成の都合上、省略した部分があります)

日本語の詩は、和歌やハイク①の伝統のせいでしょうか、総じてイメージ性が優位②に立つものが多いという印象が私にはあります。もつともそれをあまり断定的に言うのも危険ですが。

高田敏子さんの「小さな靴」を読んでみましょう。

小さな靴

高田敏子

小さな靴が玄関げんかんにおいてある

満二歳さいになる英子の靴だ

忘れて行つたまま二カ月ほどが過ぎていて

英子②の足にはもう合わない

子供はそうして次々に

新しい靴にはきかえてゆく

おとなの 疲れた靴ばかりのならば玄関に

小さな靴は おいてある

花を飾かざるより ずっと明るい

この詩の中心は最後の一行にあります。その一行で、玄関の片隅かたすみに置き忘れられている子どもの小さな靴のイメージが、読む人の心に (1)

浮かび上がってきます。

「花を飾るより」と言われることで、小さな可愛らしい靴のイメージが、美しい花のように咲くのです。

もちろんここには、「次々に／新しい靴にはきかえてゆく」子どもの成長の速さや、「(2)」の子どもと「(3)」の大人たちとの対比など、さまざまな詩人の感慨、詩人の思考内容(考え)もあります。しかし、そうしたものもみな、輝くように明るい小さな靴のイメージのなかへ溶け込んで行きます。

そしてその小さな靴にそそがれる明るい光の光源が、孫へ向けられた祖母、つまり詩人その人の(4)であることは、読む人が自ずと理解するところです。

状況はカンタンですから説明の必要はそうないでしょう。親(たぶん詩人の娘夫婦)に連れられてきた幼い孫が遊び疲れて眠り込んでしまいい、抱かれて帰って行ったあとに残された靴。詩人がたまたま見た日常の寸景。それが詩人のまなざしによつてヒロイ上げられ、平易なことばで描きだされ、優しい輝きを得て、詩の中心的(5)として定着しています。

(柴田翔「詩の道しるべ」より)

注 感慨 しみじみ感じる気持ち

寸景 ふだんの生活で見える風景

問一 線①～⑤の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 線a、bの言葉の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 自ずと		b 平易な	
ア	自分で	ア	かんたんな
イ	自由に	イ	あたりまえな
ウ	自然に	ウ	いきいきした

問三 — 線(1)の「それ」は何を指していますか。文中の言葉を使って答えなさい。

問四 — 線(2)で「英子の足にはもう合わない」とありますが、それはなぜですか。文中の言葉を使って()から)に続くように十字以内で答えなさい。

問五 (1) に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 悲しく イ 明るく ウ 大きく エ 細かく

問六 (2) (3) にあてはまる言葉を詩の中から抜き出して答えなさい。

問七 (4) にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 理解 イ 心配 ウ 愛情 エ 共感

問八 (5) にあてはまる言葉を、文中から四字で抜き出して答えなさい。

三、例にならって次の①～⑤にあてはまる部首を書きなさい。

(例) 青・月・召・寺 解答 日 (晴・明・昭・時)

① 己・十・方・正 ② 刀・反・告・束 ③ 木・主・才・支

④ 可・二・呆・木 ⑤ 女・寸・谷・玉

四、——線の言葉の敬語の種類を後のア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ① 田中さんのお宅へうかがう。
- ② まだ時間がございませう。
- ③ 遠くからいらつしやる方が多い。
- ④ だいぶ苦勞をなさつたのですね。
- ⑤ 先生から本をいただいた。

ア 尊敬語（相手の行動などを高めて敬意をあらわす言葉）

イ 謙讓語（自分の行動などを低めて相手に敬意をあらわす言葉）

ウ 丁寧語（ていねいに言うことで相手に敬意をあらわす言葉）

五、次の語を日本語に直すと、どのようになりますか。後から漢字を二字ずつ選び、組み合わせ、熟語を作りなさい。（同じ漢字は二度つかわな
ないこと）

- ① アドバイス
- ② セキュリテイ
- ③ カルチャー
- ④ クオリテイ
- ⑤ ウイークポイント

全 文 弱 言 化 品 安 点 助 質

国語解答

小計40点

2点×5	問一	①	とける	②	困った	③	危険	④	となえる	⑤	苦勞
------	----	---	-----	---	-----	---	----	---	------	---	----

2点×3	問二	1	イ	2	エ	3	オ
------	----	---	---	---	---	---	---

2点	問三	手
----	----	---

2点×2	問四	「が」	g	「ある」	b
------	----	-----	---	------	---

2点×2	問五	a	イ	b	ウ
------	----	---	---	---	---

3点	問六	違	い	な	い	。
----	----	---	---	---	---	---

3点	問七	前	日	に	私	が	教	え	た	こ	と	を	き	れ	い	さ
----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計30点

2点	問八	ア
----	----	---

3点	問九	イ
----	----	---

3点	問十	イ
----	----	---

2点×5	問一	①	俳句	②	優位	③	簡単	④	にちじょう	⑤	拾い
------	----	---	----	---	----	---	----	---	-------	---	----

2点×2	問二	a	ウ	b	ア
------	----	---	---	---	---

3点	問三	日本語の詩はイメージ性が優位に立つものが多い	こと
----	----	------------------------	----

3点	問四	子	供	が	す	ぐ	に	成	長	す	る	から
----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

2点	問五	イ
----	----	---

2点×2	問六	2	新しい靴	3	疲れた靴
------	----	---	------	---	------

2点	問七	ウ
----	----	---

2点	問八	イ	メ	ー	ジ
----	----	---	---	---	---

小計10点

2点×5	三	①	言	②	え	③	木	④	イ	⑤	へ
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計10点

2点×5	四	①	イ	②	ウ	③	ア	④	ア	⑤	イ
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計10点

2点×5	五	①	助言	②	安全	③	文化	④	品質	⑤	弱点
------	---	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----